

自然と人の文化

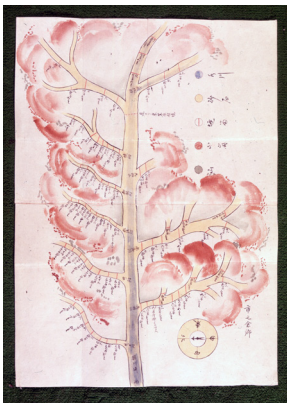
多治見市文化財保護センターだより

もくじ

- ・企画展・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- ・七ツ塚遺跡第14次発掘調査について・・・・・・3
- ・「信長朱印状」特別公開・・・・・・・・・・2
- ・文化財保護センターの仕事・・・・・・・・・・3
- ・北小木のホタル生息数調査結果・・・・・・・・・・2
- ・林雲鳳展・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

企画展「土岐川と生きる～江戸時代の治水と窯業～」

展示期間：平成27年9月14日（月）～平成28年2月26日（金）



▲市之倉郷石砂留普請絵図（個人蔵）
市之倉川にそそぐ小川の石砂留のための
堰を書き込んだもの。



▲土岐市にある伝統治水工法「聖牛」
川の流れを弱め、堤防の決壊を防ぐ。

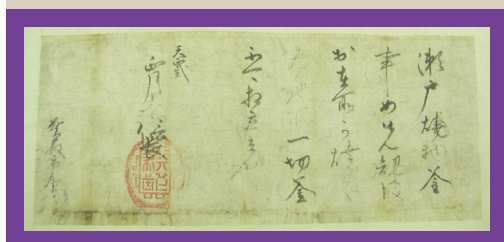
土岐川は、この地域に暮らす人々にとってかけがえのない資源であり、しかし時には氾濫を起こす、脅威ともなる存在でした。

多治見市には土岐川の水害の記録が残されています。土岐川、あるいはその支流の川が氾濫すると、浸水したり、大事な田畑を荒らしてしまったりと、人々の生活を苦しめます。そうならないように、昔から堤防や川の流れを弱める施設を作るなど、対策を行っていました。土岐川の氾濫は、東濃の地質や地形、産業や人々の暮らしに関わっており、その原因は簡単にはいえませんが、江戸時代には当地域の特徴のひとつである窯業が、主な原因に挙げられました。そこで窯業関係者は、幕府や尾張藩から、窯稼ぎを止めさせられないよう「石砂留自普請^{いしすなどめじぶしん}」を行いました。これは陶磁器の一大産地である多治見の特色ある歴史と言えるでしょう。

近年、日本各地で自然災害が多発しており、今は災害に対する関心が特に高まっているように思われます。全国的に地震対策、洪水対策など取組みが盛んに行われており、土岐川が流れる当地域も例外ではありません。大雨の際の浸水を抑えるため街中の雨水を河川に逃がす下水道の整備や、山からの土砂流出を防ぐための砂防ダムの建設が行われています。また、土岐市内の土岐川河川敷には、戦国武将武田信玄^{せいぎゅう}が考案したとされる「聖牛^{しゅんこう}」という治水施設が建設され（平成15年竣工、平成26年改修）、江戸時代まで利用された施設が現代によりがえり、増水時に堤防を守る役目を果たしています。このように、今でも水害が絶えない土岐川ですが、江戸時代、その土岐川に対して人々がどのように向き合ってきたのかを、この企画展でご覧いただければと思います。

多治見市有形文化財「信長朱印状」 特別公開！！

展示日時：平成 27 年 4 月 11 日（土）、12 日（日） たじみ創造館 2F にて



▲信長朱印状：原本（多治見市蔵）



▲会場風景

第 68 回たじみ陶器まつりのイベントのひとつとして、多治見市有形文化財に指定されている「信長朱印状」の特別公開を行いました。今後の一般公開は難しいということもあってか、一目見ようと多くの方々が訪れました。「信長朱印状」は、天正 2 年（1574）に瀬戸の加藤市左衛門に居住地域での窯焼きを許可したものです。その朱印状と共に伝わる「由来状」には、市左衛門が朱印状を持って美濃国久尻（現土岐市）に移り住み、市左衛門の子の養子である景増が多治見に朱印状を伝えたことと記されています。朱印状を展示したケースの周りから人が途絶えることはほとんどなく、2 日間通して 1800 人以上の方々にご覧いただきました。

また、多治見市図書館郷土資料室のご協力で、多治見市内の陶祖碑の写真と、昔のたじみ陶器まつりの様子の写真も展示しました。昔の陶器まつりの写真では、土岐川沿いに出店を構えていた頃の様子や、今の織部ストリートが前に進めない程の人で溢れかえっている様子を見ることができ、懐かしそうに見る方や興味深げにじっくり見る方もたくさんいました。

このように多治見の文化財を多くの方に見ていただくことで、多治見の歴史を知り、貴重な文化財について考えるきっかけになったのではないかと思います。

平成 27 年度 北小木のホタル生息数調査結果

北小木町に毎年数多く飛び交う「北小木のホタル」は、多治見市天然記念物に指定されています。その発生状況について、今年も 6 月初めから 7 月半ばにかけて、ゲンジボタルとヘイケボタルそれぞれの調査を行いました。今年は雨で全地点の調査ができなかったことが多く、ゲンジボタルの調査では 1 回は中止、2 回は数地点のみの調査となりました。

昨年はゲンジボタルが大発生しましたが、今年の生息数は、昨年の 4 分の 1 程度となりました。どの地点でもゲンジボタルの数は減少し、特に天王橋付近の地点と三面張改修地点で激減しました。発生時期は例年と同じく 5 月下旬でしたが、発生のピークは、地点ごとにばらつきが出ました。北小木川に生息するゲンジボタルは 3 年周期で大発生することが分かっていますが、平成 23、24 年度の大雨により壊れた堰堤の工事などが行われ、その周期が乱れました。昨年から発生ピークとなり今年の生息数は減りましたが、来年も減って再来年また大発生するようになれば、3 年周期が戻ってきたことになります。

ヘイケボタルは昨年減りましたが、今年も去年と同じくらいで、全地点 5 匹以下となりました。ヘイケボタルの生息地は田が主ですが、1 度水を切り乾田にするため、生息が難しくなっているようです。

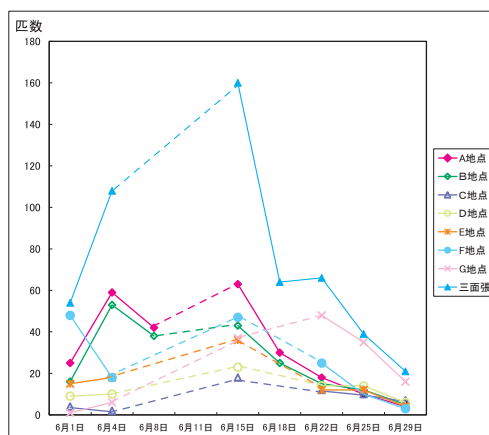
今年のゲンジボタル、ヘイケボタルそれぞれの調査データは今後の保護のための資料にするとともに、また、来年もホタルの生息数調査を行っていく予定です。

毎年、調査は多くの市民の皆様にご協力をいただいて実施しています。今年は初めて南姫中学校 1 年生 9 名が総合学習の一環として参加しました。6 月 15 日から 25 日までの 4 回のゲンジボタル生息数調査に参加し、ボランティアの方々と一緒にホタルのカウントを行いました。南姫中学校校区である北小木の自然を知り、体験する貴重な機会になったことと思います。ボランティアの方々、南姫中学校の参加された生徒や先生、関係者の方々にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

※三面張改修地点・・・過去に川岸と川底をコンクリートで固めたが、自然に近い環境に改修した地点。

資料1 平成27年度 ゲンジボタル 生息数調査結果

月日	A地点	B地点	C地点	D地点	E地点	F地点	G地点	三面張	合計	天候
6月1日	25	16	4	9	15	48	1	54	172	くもり
6月4日	59	53	2	10	18	18	6	108	274	晴
6月8日	42	38							80	雨
6月11日									0	雨
6月15日	63	43	18	23	36	47	37	160	427	晴
6月18日	30	25						64	119	少雨
6月22日	18	15	12	14	12	25	48	66	210	くもり
6月25日	10	12	10	14	12	10	35	39	142	くもり
6月29日	4	5	7	6	4	3	16	21	66	くもり
最大発生数	63	53	18	23	36	48	48	160	449	



A地点：天王橋上流
B地点：宮下橋上流
E地点：宮下橋上流
F地点：天王橋下流
G地点：宮下橋下流
※6/8は雨天のためA・B地点のみ調査、6/11は雨のため中止、6/18は雨天のためA・B・三面張改修地点のみ調査。

七ツ塚遺跡第 14 次発掘調査について

場 所：音羽町 1 丁目地内

期 間：平成 26 年 8 月 18 日～ 10 月 28 日、平成 27 年 2 月 10 日～ 7 月 28 日

面 積：1,280 m²

ななつづか

七ツ塚遺跡は、JR 多治見駅北側、標高 95m 前後の土岐川右岸の平坦な段丘面（音羽町 1 丁目、白山町 1 丁目）に立地する遺跡で、平成 18 年度の試掘調査で初めてその存在が明らかとなりました。以来この一帯で行われている区画整理事業や民間開発等に伴って、多治見市文化財保護センターが発掘調査を進めてきました。これまでの調査で、縄文時代中期の土^{どこう}、弥生時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代後期の竪穴式住居跡や溝状遺構、中世の竪穴建物跡や溝状遺構、近世の暗渠施設など多数の遺構が検出され、縄文時代から近世まで連綿と続いた集落遺跡であったことが明らかになってきました。

今回、土地区画整理事業地内での公園造成工事に伴い実施した第 14 次調査は、1,280 m²を対象としたものです。調査の結果、4 層に互る遺物包含層が確認され、古墳時代後期の溝（SD16）や、近世～近代の溝（SD01 ～ SD15）、近世の集^{せきぞく}礫遺構や木杭などの遺構が検出されました。またこれらに伴って縄文時代の石^は鏃、古墳時代の土師器、須恵器、平安時代の灰釉陶器、中世の山^{やまぢやわん}茶碗や古瀬戸、大^こ窯製品、近世の陶磁器類など多くの出土品を得ることができました。

※SD・・・溝を示す記号。



▲発掘作業風景



▲古墳時代の溝 ▼須恵器出土状況



文化財保護センターの仕事 ～整理作業～

発掘調査の整理作業は、発掘の成果をまとめた報告書を作ったり、出土遺物を展示などに活用するための大切な仕事です。まず始めに、発掘調査で出土した遺物の洗浄や接合などをして通し番号を付け、整理整頓をします。その後、発掘調査報告書に載せるための遺物をピックアップして実測図やトレースを描きます。

では、遺物の実測をしている方に、どんな作業をしているのかインタビューしたいと思います。



▲マコ

▼キャリパー



どこの現場の遺物を実測しているのですか？

住吉 16 号^{かいゆうとうき}窯で、灰釉陶器の窯跡の遺物を実測しています。

実測とは、どんな作業ですか？

遺物をよく観察して、その形や厚み・模様などの細かな情報を正確に図面に記録する作業です。

どのように形や厚みなどを測るのですか？

ものの形を取る「マコ」や厚みを測る「キャリパー」などの特別な道具を使って計測します。使い慣れるまでに、少し時間がかかります。

最後に、実測の楽しい点・難しい点を教えてください。

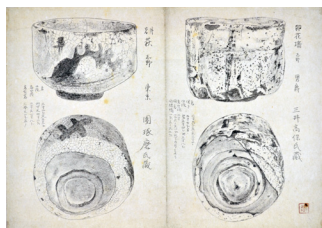
当時の人が、どんな気持ちでこの灰釉陶器を作って、どのように使っていたのか。想像しながらその痕跡を観察するとワクワクします。

ひとつとして同じ製品はありません。その点が面白くもあり、難しい点でもあります。歪んでしまった茶碗から本来の姿を推測したり、石器ややきもの、木製品など、材質によって実測方法も変わってくるので、大変な作業です。

この実測という作業は、遺物を図化するだけでなく、当時の人々がどのように作り使用したかを記録として残すとても重要な仕事になります。文化財保護センターでは、こういった作業を発掘調査と合わせて行っています。

「林雲鳳展」

展示期間：平成 27 年 3 月 7 日（土）～ 3 月 9 日（月）



◀「茶碗模写」

卯花牆 志野・朝荻 志野

「那須与一」▶



平成 26 年度に開催された林修先生（東進ハイスクール 東進衛星予備校 講師）の駅北庁舎完成記念講演会に併せて、林先生の祖父であり、日本を代表する大和絵画家・林雲鳳（本名：林雄一）の展覧会を平成 27 年 3 月 7 日（土）から 9 日（月）に開催しました。3 日間で約 1300 名のご来場があり、雲鳳氏の人気の高さを改めて実感する展覧会となりました。

本展覧会では、文化財保護センターの所蔵品の中から、雲鳳氏が得意とした歴史画を中心に、茶碗の模写や鼠志野の大皿など、氏の多彩な才能に触れる展示を目指しました。歴史画は、史実を忠実に再現され、さらに氏の深い探究心が垣間見れる非常に精巧な表現で描かれています。その時代に合った甲冑を描いたり、実際に物語の舞台となった場所を訪れるなど、生涯古典の研究を続け、作品に活かしていました。戦後、東京から郷土の笠原町に戻って描いた茶碗の模写は、苦しい生活の中でも、描くことへの情熱を失うまいと描き続けたシリーズです。とてもモノクロの画集から描き起こしたものとは思えないほど緻密な線に驚きを隠せません。ご家族から「これが父の線だ」と伺った時は、雲鳳氏の本質に触れることができたような実感を覚えました。色紙の十二月絵シリーズは、お手本帳としてお弟子さんに配られたものです。それを見て何枚も練習描きした後、雲鳳氏の指導を厳しく受けるという流れでした。来場されたお弟子さんが、そういった雲鳳氏との思い出を懐かしそうに語って下さいました。また、やきものの町に生まれた雲鳳氏は、幼少の頃よりやきもの作りに関わり、帰郷してからも古窯の発掘調査団に参加したり、作陶にも励みました。展示した「鼠志野寿老図大皿」は、長男の結婚式の引出物として作られた作品です。すべて違う絵柄を器面に描いたそうで、氏の喜びや来賓客への厚い心遣いが伺えます。

今回の「林雲鳳展」では、氏と縁のある多くの方々のご来場下さいました。これだけ地元に愛されている大和絵画家・林雲鳳の展覧会を短期間ではありますが開催できたことを嬉しく感じます。この場をお借りして、本展開催にあたりお世話になりました皆様に御礼申し上げます。



▲「藤房卿」（第二回新文展入選作品）



▲会場風景



〈利用案内〉

開館時間：9:00 ～ 17:00 休館日：土・日・祝日、年末年始 入場料：無料

〈交通案内〉

タクシー：多治見駅から約 20 分

バス：「美濃焼卸団地」下車 徒歩 8 分

多治見駅前発 皐ヶ丘 9 丁目行／可児駅前行

多治見駅北口発 皐ヶ丘 9 丁目行／可児駅前行

自然と人の文化

No.46 2015.10

編集／発行 多治見市文化財保護センター

〒507-0071

岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26

Tel.(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

URL <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

(作成部数1,300部、作成費用24千円)

